

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立打上小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校や長期欠席の児童を出さない・つぐらない取組を学校が一体となって実施・実現することができた。教職員間の情報共有は密に行うことができ、一人で抱え込まないチームとしての体制づくりを確立できた。</li> <li>インクルーシブ教育やSDGsの視点で教育課程を仕組み、周りの人のことも考えられる社会性や自ら進んでいることに取り組める積極性を身に付ける児童を育成することができた。</li> <li>何事にも「本気」でチャレンジし、友達と仲良く学校生活を送ることができる環境を様々な角度から整えることで、伝統的な打上っ子らしい「真面目で、明るく、優しい、思いやりのある児童」を育てることができた。</li> </ul>

2 学校教育目標	地域や仲間を思い 夢に向かって輝く子どもの育成
----------	-------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善を通して、児童の学びを充実させ、表現力を向上させる。</li> <li>学校生活や体験活動の中で支持的風土を醸成し、児童の人権意識や自己肯定感を高める。</li> <li>特別支援教育を推進し、児童への支援体制を充実させる。</li> </ul>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○児童が目的意識をもちながら学び合い、自分の考えを深めたり広げたりする授業を行う。自分の考えを表現する場を授業の中に設定する。	○なかよし学習を軸とした授業を展開し、授業で「わかった」「がんばった」と肯定的な回答した児童85%以上	・「唐津の学びスタイル」に合わせたなかよし学習の実践を図り、深い学びへつながる授業改善を行う。チェックシートを活用して学期毎に振り返る機会を設定する。	A	・なかよし学習を軸とした授業を展開し、全学年で授業研究会を実施した。 ・学校の授業の中で「わかった」「がんばった」と肯定的な回答した児童97%、同質問に教職員、保護者の回答100%、95%だった。	A	・授業中の児童は先生の話をしかりと聞き、お互いに意見交換をしていた。なかよし学習は以前からの積み重ねの成果が出ている。		学力向上CN
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳授業の充実と支持的風土の学級経営により、人権意識や自己肯定感、規範意識の涵養ができたと回答した児童80%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・児童の実態に合わせた内容を取り上げ、身近な問題として考えさせるようにする。	B	・「自分や友達を大切に、正しい行いをしようとしている」に「よくあてはまる児童が89%だった。 ・「学校は、自分や他人を大切にすることや規範意識を高める指導を行っている」と回答した保護者が97%だった。 ・道徳科の授業づくりに関する研修を実施し、児童の実態に合わせた道徳の指導を行った。	A	・道徳教育の難しさを実感している。先生方の引き続きの努力を期待している。 ・道徳の授業についての周知がまだまだではないのだろうか。保護者にもっと知らせるとよい。	道徳教育推進教師・人権・同和教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員85%以上	・なかよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・日々の児童観察を大切に、アンケートに表れていない面についても、気になることの早期発見・早期対応に努める。 ・生活指導協議会で気になる児童への対応を共通理解をした上で、組織的対応を行う。	A	・なかよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努めた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教職員90%。 ・生指協では、全職員の共通理解の場となった。その中で重要案件については、管理職や外部機関と連携しながら対応することができた。	A	・アンケートに思いを書けずに内に秘めている児童がいれば、早く見つけてほしい。 ・問題が起きたときに、学校の対応が遅れると保護者や児童に辛い思いをさせることになる。	生徒指導 いじめ防止担当	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標をもっている」として肯定的な回答をした児童86%以上	・自己肯定感が高まる取組を行い、積極的に教師の話や掲示物等で紹介するなど広報に努める。 ・外部講師を積極的に呼び込み、キャリア教育を充実させる中で、自分の夢や目標をしっかりともてるような取組を行う。	A	・「先生はよいところを認めてくれる」と回答した児童が93%であった。授業や様々な活動の中で着目と承認を児童に与えられ、自信をつけられたと思う。 ・外部講師を招いて、児童に数々の経験を積み機会を与えられたので、職業や将来の夢、自分の身近な目標につながる学びができた。「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童が98%であった。	A	・先生がほめると、その子の良い所が周りに広がり、周りもほめるようになる。もっとほめてほしい。 ・市報の表紙に打上小しめ縄作りが載っていた。いろいろな体験をして伝統や文化、地域を大切にしたい。	キャリア教育 特活主任	
	○特別活動による自主的実践的態度の育成	○「よく見る・よく聞く・よく考える」を合い言葉に、学習や活動に真剣に取り組むことができた回答した児童85%以上	・活動の前にあてて確認し、意識させ、活動の後は振り返りの場を設けて、頑張りや協力性の視点で発表させたり、まとめたりする。 ・授業中の友達の発言をしっかりと聴くよう指導し、話す人も相手を意識させる。	A	・アンケートの結果、「よく見る・よく聞く・よく考える」の項目に、学習や活動に真剣に取り組むことができた回答した児童が90%であった。 ・学習のふり返り、感想を言える児童が増えている。集会時の発表も堂々と発言するようになってきた。	A	・行事に参加すると、児童の態度がとてよい。そして、積極的に自分の考えを発表している。先生方が常に指導をされていると思う。	特活部	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣ができていると回答した児童85%以上	・給食委員会からの放送や保護者への啓発と児童への声かけを頻繁に行う。	B	・アンケートを実施した結果から「早寝・早起き・朝ごはん」の児童ができていないと回答した児童は86%であった。 ・アンケート結果から、ハンカチ、ちりかみをもち、つめきりきちんとしていると回答した児童は90%であったが、実際の衛生検査の集計のハーフエターの平均は、63.9%と低かった。今後も継続してほけんだより等で呼びかけていく必要がある。	B	・児童はチェック週間の時だけ真剣に取り組んでいる。衛生面のしつけは家庭にもあるので、連携が必要である。 ・まだまだ甘えのある小学校期なので、今後も継続して指導してほしい。	栄養教諭 保健担当	
	○「衛生指導の徹底」	○衛生検査（ハンカチ、ティッシュ、つめ）で、忘れていない児童80%以上	・ほけんだより等で啓発を行う。	B	・元気に外遊びをしたり、運動をしたりしている回答した児童は83%であった。学年が上がるとつれて委員会の仕事等で休み時間に遊ぶ機会が減っているため、運動量を増やせるような授業づくりをする必要がある。	B	・体を使うことが少ない生活習慣が影響しているのではないだろうか。家庭においても手伝いや遊びなどをさせ、連携してほしい。 ・高学年の昼休みの確保が必要だ。	保体部	
	○体力向上を意識した取り組み	○アンケートで「元気に外遊びや体力づくりができた」と回答した児童85%以上	・体育の行事や授業の中で、児童一人一人がめあてをもって体力向上に取り組むことができるようにする。 ・健康委員会からの放送や担任からの呼びかけを行い、外遊びを奨励する。	B	・月1の時間外在時間45時間を超える職員は20%。 ・業務の精選と効率化を図り、質の高い業務内容を目指す。	A	・働き方についての研修、それに向けた意識改革を働きかけた。また、業務の精選や校時表の見直しを行い、個人業務の時間を見いだした。月の時間外在時間45時間を超える職員はいない。	A	・先生方の仕事の切り替えができていないのではないだろうか。健康のために意識改革を望みます。それが良い指導につながります。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在時間等の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在時間等の上限(月45時間)を遵守する。	・月の時間外在時間45時間を超える職員は20%。 ・業務の精選と効率化を図り、質の高い業務内容を目指す。	A	・定時退勤の推奨する。 ・長期休業中の研修を精選する。 ・行事精選により放課後の時間を確保する。 ・記念日休暇の積極的取得を促す。	A	・年休30%は良い数字なのか。妥当なのか。もっと年休を取ることができる環境整備を望みます。	サービス・業務の効率化担当	
	○年次休暇の積極的な消化のための意識改革	○個人が持っている年次休暇の消化を30%以上	・研修の充実と実施 ・児童理解による児童についての共通理解	B	・「学校は、特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上に取り組んだ」のよあてはまるに回答した教員が、90%だった。 ・児童理解で情報共有を行い、夏休み期間中に講師を招いての研修を2回行い、教員の専門性向上に努めた。	A	・対象児童が増えている中、さらなる意識向上に努めてほしい。	特別支援教育	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT利活用教育の推進	○1人1台端末活用の推進	○1人1台タブレットを活用できたと答えた児童と教師85%以上	・教職員間でタブレットの活用法を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・一人一台タブレットを使って勉強することができた回答した児童は92%、教員は100%であった。学年に応じた活用の仕方ができている。教員間でより良い使い方を共有し、さらなる活用を目指したい。	A	・児童は家庭で率先して使っている。 ・先生方の技能向上を期待している。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>なかよし学習は教員が共通理解・共通実践を行っている。児童の学力向上へ向けて、唐津の学びスタイルを意識した授業改善を行っていく。</li> <li>特別活動や体験活動を通して、児童の自己肯定感や郷土愛を育むことができた。また、将来の夢をもたせることができた。来年度もこのような活動を充実させる。</li> <li>道徳の授業改善、人権・同和教育、特別支援教育を推進し、教員の知識と技能を向上させるとともに活用や情報交換を行い、児童への支援を充実させていく。</li> </ul>
--------------------	---